



(1) Captains of Industry

Captains of Industryという語は、19世紀イギリスの歴史家・思想家トーマス・カーライルが著した『Past and Present』（邦題『過去と現在』）の第4編にある。カーライルは当時のイギリスにおける拝金主義を批判し、Captains of Industryとは「混沌、困窮、諸悪に対して戦い、人類を導く真の勇者」であるとしている。

(2) ソーシャル・データサイエンス学部／研究科

社会科学の視点からデータサイエンス領域の新たな教育研究分野を確立するため、2023年に開設された学部・研究科。新学部設置は72年ぶり。入学定員は学部60人、大学院博士前期課程21人、博士後期課程7人。「ビッグデータの時代」が到来した現代社会の諸課題を解決できる人材の育成を目指す。

(3) グローバル教育ポートフォリオ

一橋大学は学部生全員に、高い質を担保した海外留学、海外調査、語学研修等の機会を提供。全学生必修の「初年次英語スキル教育」に加え、「短期語学留学」「国内での語学集中研修」「短期海外留学（サマースクール）」「長期海外留学」「海外インターンシップ」「ゼミを中心とした海外調査・インターゼミ等」をグローバル教育ポートフォリオとして定め、必修科目＋その他1つ以上の履修を卒業要件としている。

(4) ゼミナールを核とする少数精鋭教育

ゼミナールは担当教員の指導のもとで特定のテーマについて発表や討論を行う、学生の自発的な参加を重視する授業形式。一橋大学は伝統的にゼミナールを教育の中心に据えており、平均7～8人の少人数で実施。現在も全学生が必修となっている。



3年次には、実際にデータ分析を行うPBL（Project-Based Learning）演習を必修科目として設置。企業や政策機関等から提供された現実の問題意識やデータについて、1・2年次に修得した社会科学とデータサイエンスの知識を融合させながら課題解決に取り組む中で、実践的な知識・スキルの修得を目指します。

評価の高いグローバル教育95%超の就職実績へ結実

一橋大学は「グローバル教育ポートフォリオ」を卒業要件として定め、海外調査や語学研修などを含む多彩な留学プログラムを展開。海外の大学の学年暦への柔軟な対応を可能にする4学期制の導入とあわせて、留学生を含めた学生の国際流動性の向上を図ることで、世界中の多様な価値観を持つ人々と接する機会を提供しています。

「新たな実業人」育成に向けたスタートアップ支援を拡充

一橋大学は起業に対する支援も充実しています。きめ細かなキャリア支援も特長で、個別相談には企業等での勤務経験もある国家資格を持つキャリアアドバイザーが1対1で対応。24年度に学内で開催された企業・官庁の説明会やゼミナールには延べ約400社・団体が参加するなど、将来に幅広い選択肢を持つための機会が豊富に用意されています。

能力など、グローバル・リーダーが備えるべき諸能力をもつ人材の養成を目指しています。特別な奨学金制度など、GLPに選抜された学生向けの手厚い支援も魅力です。こうしたグローバル教育やゼミナールを核とする少数精鋭教育^④で鍛えられた学生への企業・団体からの評価は非常に高く、24年度卒の就職率は96・3％。就職先の多くを大企業や優良企業が占める中で、就職率95％以上の高い就職実績を毎年保っています。

「一橋大学修学支援事業基金」など、経済的な理由で修学が困難な学生に家計支援や留学支援を行う奨学金制度も充実。その多くは同窓会が

充実の支援で学びを後押し「住まい支援制度」も創設



少人数で行われるゼミナール



なかのりつこ
中野 聡学長
1983年一橋大学法学部国際関係課程卒業。90年同大学大学院社会学研究科地域社会研究専攻博士後期課程単位修得退学。社会学博士。専門はアメリカ史、米比関係史。神戸大学助教授、一橋大学教授、社会学研究科長、副学長などを経て2020年より現職。

「世代や文理の壁をこえて国際社会のリーダーを育成」

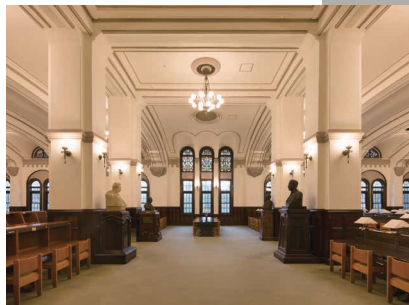
データ分析に社会科学を活用 実践的な課題解決力を伸ばす

「ビジネス領域（経営学、マーケティング、経済学など）」「社会課題領域（法学、政治学など）」「データサイエンス」の3領域について、体系的な知識を修得できるカリキュラムを用意しています。

「データ分析に社会科学を活用 実践的な課題解決力を伸ばす」

「ビジネス領域（経営学、マーケティング、経済学など）」「社会課題領域（法学、政治学など）」「データサイエンス」の3領域について、体系的な知識を修得できるカリキュラムを用意しています。

「データ分析に社会科学を活用 実践的な課題解決力を伸ばす」



附属図書館大閲覧室